

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート												
事務事業名		畜産業振興事業						予算事業名		畜産業振興事業費						
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令							
				06	01	05	1101	経常経費								
総合計画体系		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							事業の区分		主要事業					
		3-1元気あふれる農業の振興(農業)														
		①活力ある産地の育成							担当課係等		農政課					
		2畜産経営の安定化									農業係					
事業期間		継続(昭和58年度～年度)														
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
酪農家間の連携を強化し、消費者との交流を深め、酪農の振興を図る。 ワクチンの予防接種や疾病検査により安全な畜産物を生産し、殺虫剤を散布することにより環境対策を行い、畜産経営の安定化を図る。								牛乳等の乳製品の消費が減少してきているため、酪農の普及を促していきたい。 畜産農家の環境対策や感染症への対策に係る経費が増加してきているため。								
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】								
酪農家団体の牛乳消費拡大事業や視察研修会に対して助成を行う。 養豚農家及び牛飼養農家が行うワクチンの予防接種に対して助成を行う。 乳用牛の疾病検査に対して助成を行う。 畜舎及び堆肥舎に散布する殺虫剤の購入に対して助成を行う。								結城市家畜畜産物衛生指導協会 結城市酪農振興協議会 酪農・養豚農家								
								【事業をとりまく環境の変化】 畜産農家は飼料高騰、家畜伝染病の発生増加によるワクチン接種及び消毒薬等の衛生費増加等により、非常に厳しい経営状況にある。そのため畜産農家の支援の要望は多いので、それに応える必要があると思われる。								
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】								
酪農家の連携強化や、乳製品の消費拡大のための事業に対して助成を行う。 感染症に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。 環境衛生のために、殺虫剤に対する助成を行う。				酪農家の連携強化や、乳製品の消費拡大のための事業に対して助成を行う。 感染症に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。 環境衛生のために、殺虫剤に対する助成を行う。				酪農家の連携強化や、乳製品の消費拡大のための事業に対して助成を行う。 感染症に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。 環境衛生のために、殺虫剤に対する助成を行う。								
■事業費																
				H29年度		H30年度										
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0									
	県		支	出	金	79,330	0									
	地		方		債	0	0									
	そ		の		他	0	0									
	一		般	財	源	844	1,228									
歳入計(千円)				80,174		1,228										
歳 出 内 訳	節(番号+名称)			金額(千円)		金額(千円)										
	19 負担金補助及び交付金			80,174		1,228										
歳出計(千円)(A)				80,174		1,228										
伸び率(%)						-98.46										
備考	総合計画95ページ 予算書118ページ															

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	豚オーエスキー病予防接種実施農家戸数	戸	目標	21.00	10.00	10.00
			実績	3.00	0.00	0.00
	殺虫剤等購入戸数	件	目標	25.00	25.00	25.00
			実績	13.00	0.00	0.00
成果 指標	オーエスキー病及びアカバネ病陽性戸数	戸	目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
	害虫苦情件数	件	目標	5.00	4.00	4.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	食の安全に対する消費者ニーズの高まりにより、高品質の畜産物が求められており、畜産振興を図るためには必要である
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	生産者の意欲を高め、畜産物の品質向上により、生産者の経営の安定化を図ることができる。飼養上の衛生管理の指導、防疫の推進、法的な問題など、行政がやるべき事業である
	手段の妥当性	A 妥当である	市が関与するやり方が一般的であり、特に問題はない
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	畜産農家は飼料高騰や衛生費増加等により非常に経営が厳しいため、補助事業等の支援が必要である。ただ、オーエスキー病ワクチン予防接種は接種頭数が減少してきていることからコスト削減を図っていく必要がある。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	受益者は畜産農家であるが、畜産農家に対しては周知しているので偏りはない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	畜産環境対策事業は成果の向上があるが、家畜防疫事業はオーエスキー病（AD）の清浄化した農家が増えたことにより、接種頭数は減少している。AD清浄化対策の最終目標は抗体陽性豚を無くし、ワクチン接種を中止することである。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	ある程度順調に進んでいる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
現在の事業については、ある程度目標が達成できれば経営の安定化が図られるため、次の事業に展開していくことも必要であると思われる。生産者の高齢化や担い手の確保、家畜伝染病の流行や感染などの不安は抱えている。畜産農家は飼料高騰や生産費増加等耕種農家よりも生産費がかかり、経営が非常に厳しいため、家畜の防疫体制、環境衛生、資質能力及び生育向上の事業に対する助成、環境に配慮・調和した生産体制作り等を推進していく必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
畜産農家の経営安定化を図り、家畜伝染病の発生及び蔓延を防止し、畜産業を継続的に行ってもらうため、畜産農家の意見を聞き、事業に反映できるようにする。また、生産者に対する事業目的の周知や個体改良に対する意識の高揚が必要である。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 畜産業の経営安定と振興を図り、家畜伝染病の発生及び蔓延を防止するため、指定獣医師の平常的な防疫指導が重要であり、家畜伝染病発生状況や畜舎環境対策を常に検証しながら事業を行っていく必要がある。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。